

# 不適正な犬や猫等の多頭飼育探知 チェックシートの活用について

令和7年11月12日  
福祉健康部高齢介護課  
地域包括支援係

# 多頭飼育対策の経緯（環境省）

令和3年3月

「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」を策定

## 概要

- 多頭飼育問題の背景には生活困窮や社会的孤立等がある（社会福祉的支援が必要な飼い主が多い）
- 多頭飼育問題は早期発見、早期介入（リスクがあれば1頭飼育でも）及び動物愛護管理局と社会福祉部局の連携対応が重要

※多頭飼育問題とは、多数の動物を飼育し、下記の3つの影響のいずれか、もしくは複数が生じている状況

- ①飼い主の生活状況の悪化
- ②動物の状態の悪化
- ③周辺的生活環境の悪化

# 多頭飼育対策の経緯（神奈川県）

令和3年3月

「多頭飼育対応方針」を策定

## 概要

●多頭の飼い主の様々な飼育状態に応じてサポートできるように3つの対策を講じる

①**早期探知・多角的支援**のための対策（初期）

- ・市町村などの関係機関と情報共有体制を構築

②飼い主の管理能力以上に増やさないための対策（中期）

- ・一定の条件を満たした緊急性のある飼い主に対して避妊去勢手術の実施を支援

③頭数を減らすための対策（後期）

- ・飼い主の所有権放棄の意思を確認後、まずは動物愛護センターに収容

# 早期探知・多角的支援の対応策（神奈川県）

令和6年4月

「不適正な犬や猫等の多頭飼育 探知チェックシート」を策定

## 目的

・犬猫の多頭飼育問題は飼い主の健康状態や経済状況の悪化等、生活環境の悪化につながる傾向にあるため早期段階で情報提供をいただくことで未然防止につなげる。

### ●探知チェックシート項目のポイント

- ・適正でない飼育を判断するための項目を列挙し、どのような場合に関係機関に情報提供した方がよいのかを選択式で可視化
- ・通報時点では飼い主の情報は記載せず、個人情報保護法に抵触しない情報提供

# チェックシート提出後の流れ

- ①小田原市高齢介護課に提出後、神奈川県小田原保健福祉事務所に伝達
- ②県小田原保健福祉事務所が記入者（介護保険事業者様等）に連絡し、  
（個人情報伏せた形で）飼い主の具体的な飼育状況をヒアリング
- ③ヒアリングの結果、県小田原保健福祉事務所が飼い主宅への訪問が必要であると判断した場合には、「必要な支援を受けられるよう県保健福祉事務所に飼育状況を伝え、後日、県小田原保健福祉事務所と一緒に訪問をしてよいか」、飼い主の同意を取っていただくようお願いします※

**※本人同意は支障のない範囲でお願いします**

（備考）

- ・介護事業者の訪問の際に県小田原保健福祉事務所職員が同行するなど飼い主本人の了解が得やすい方法により対応願います（訪問時に県保健福祉事務所職員に飼い主から直接必要な個人情報を聞き取ってもらうようにする）
- ・県小田原保健福祉事務所は動物を取り上げて殺処分をする機関ではなく、動物の適正飼養ができるよう助言・指導をする機関です。

# チェックシート提出後の流れ（フロー）

